

ヒト認知系の総合的研究

研究者 本田 仁視, 宮崎 謙一, 鈴木光太郎
工藤 信雄, 福島 治

1. 成果の概要

・視覚性注意の生成メカニズムに関する研究

視覚情報処理は、まず外界の刺激による視覚的注意の喚起誘発から始まる。このもっとも初期の段階における情報処理のしくみと特性を明らかにするため、サッカーとよばれる高速眼球運動の反応時間（反応潜時）を指標とした実験を行なった。その結果、反射的注意と意図的な行動制御の間の時空間的な相互抑制関係が明らかになった。（本田仁視）

・絶対音感保有者の聴覚特性に関する研究

絶対音感保有者が調性をどのように認知しているかを調べる目的で、ワルシャワのショパン音楽アカデミーの学生を被験者にして実験を行なった。調性感を確立するための和音系列の後に、テスト音として半音階の12音が提示され、被験者は各テスト音について、調性の中での適合度を評定した。その結果、同程度の音楽経験をもつ音楽専攻学生では、絶対音感保有者は非保有者に比べて、調性プロフィールが不明確になる傾向が見られた。この結果から、絶対音感保有者が非保有者に比べて、調性を明瞭に感じ取っていないことが示唆された。（宮崎謙一）

・色の変化の見落としに関する研究

画像刺激を連続して提示した場合に、刺激の一部が変化しても、観察者はそれに気づかないことがある（change blindness（変化の見落とし）現象）。本研究では、3×3のマトリックス上に5つの対象を配した画像刺激を用いて、対象の変化（ほかの対象に変化する）、対象の色の変化、位置の変化について検討を行なった。その結果、対象の変化と色の変化についてはchange blindnessが生じることが明らかになった。（鈴木光太郎）

・視距離の判断における知覚と行動の乖離に関する研究

前額面に提示された2標の間距離は一般に、物理的には等距離であっても、奥行き方向に提示されると過小評価される。本研究では、地表に提示された標的間の距離を知覚的に判断させる知覚課題と、目隠し歩行課題の成績を比較した。その結果、知覚課題で報告された距離は実際の距離よりもかなり過小評価されたが、先行研究 (Philbeck et al., 2004) とは異なり、両課題での距離推定には奥行き方向の過小視が一貫して観察された。さらに、前額面方向で判断された距離と奥行き方向で判断された距離の比を算出した結果、運動反応と知覚判断が視空間に関する同一の内部表現を共有していることが示唆された。(工藤信雄)

・行動特性情報の認知に関する研究

社会的環境条件としての他者に関する情報と、その他者を条件としたときの自己に関する情報との認知的連動性について実験を行なった。その結果、父や母に関する行動特性情報と、それぞれの他者を条件としたときの自己に関する行動特性情報との連動性を示唆する知見が得られた。(福島治)

2. 具体的な成果

○学術誌発表

- ・ Honda, H. The remote distractor effect of saccade latencies in fixation-offset and overlap conditions. *Vision Research*, 45, 2773-2779, 2005.
- ・ 宮崎謙一 絶対音感保有者の音楽的ピッチ認知における言語的符号化. *認知神経科学*, 7, 67-70, 2005.
- ・ Miyazaki, K. & Ogawa, Y. Learning absolute pitch by children: A cross-sectional study. *Music Perception* (in press).
- ・ Kudoh, N. Dissociation between visual perception of allocentric distance and visually directed walking of its extent. *Perception*, 34, 1399-1416, 2005.

○学会発表

- ・ 本田仁視 Remote distractor 効果—注視点の持続提示の影響. 日本心理

学会第69回大会 (2005年9月)

- ・ 本田仁視 Remote distractor 効果—注視点の on/off と刺激位置の効果。
日本基礎心理学会第24回大会 (2005年12月)
 - ・ Miyazaki, K. Absolute pitch in perceptual/cognitive and developmental perspectives. ワルシャワ大学心理学部 (2005年3月)
 - ・ Miyazaki, K. Absolute pitch in perceptual/cognitive and developmental perspectives : the Japanese method of absolute-pitch training. ショパン音楽アカデミー, 音楽心理学科主催研究セミナー (2005年5月)
 - ・ Miyazaki, K. Absolute pitch in perceptual/cognitive and developmental perspectives. ショパン音楽アカデミー, 音楽音響学科主催研究セミナー (2005年5月)
 - ・ Rakowski, A. & Miyazaki, K. Absolute pitch: Common trait in music and language. International Workshop of Speech Analysis, Synthesis and Recognition (2005年9月)
 - ・ 鈴木光太郎・荘司絵美 色の変化の見落とし. 新潟心理学会第42回大会 (2006年2月)
 - ・ 工藤信雄 距離の視知覚と運動反応との間に解離は存在するのか?
日本基礎心理学会第24回大会 (2005年12月)
 - ・ 福島治 自他特性情報のリンクによる特性判断の促進効果とその消失:
課題促進パラダイムによる検討. 日本心理学会第69回大会 (2005年9月)
- プロジェクト研究会 (2006年3月30日)
- ・ 宮崎謙一 絶対音感の神話
 - ・ 工藤信雄 知覚系と運動系の乖離: 距離の視知覚と歩行距離の対応から